

第9次札幌市環境保全協議会 第1回会議 議事概要

【開催日時】

平成25年5月22日（水）15:00～17:15

【開催場所】

札幌市役所本庁舎 12階1・2号会議室

【委員の出欠状況】（委員18名中16名出席）

	氏名	所属団体等
出席	あおき よしのり 青木 善範 委員	公募市民
	いちむら かずし 市村 一志 委員	NPO法人 ひまわりの種の会
	えんだ まさひろ 遠田 雅宏 委員	一般社団法人 北海道建築士事務所協会 札幌支部
	おおくま けいすけ 大熊 啓介 委員	NPO法人 ezorock
	おおた さちお 太田 幸雄 委員	北海道大学 名誉教授
	おだ かつよし 小田 勝義 委員	公募市民
	こばやし みつな 小林 三樹 委員	藤女子大学 研究支援研究員
	たかはた のぶお 高畠 宣雄 委員	公募市民
	たけだ ひでかず 武田 秀一 委員	一般社団法人 札幌地区トラック協会
	ちば ひでき 千葉 英樹 委員	NPO法人 北海道省エネまちづくり協会
	てるい こういち 照井 幸一 委員	一般社団法人 札幌ハイヤー協会
	どえだ つや子 土江田 つや子 委員	公募市民
	ながおか ただまさ 長岡 忠正 委員	一般社団法人 北海道太陽光発電普及協会
	みやもと なお 宮本 尚 委員	認定NPO法人 北海道市民環境ネットワーク
	みやもり よしこ 宮森 芳子 委員	北海道地球温暖化防止活動推進員
むらかみ しんご 村上 伸吾 委員	生活協同組合コープさっぽろ	
欠席	あおき なおと 青木 直人 委員	日本チェーンストア協会 北海道支部
	おおの よしたか 大野 芳高 委員	イオン北海道株式会社

【配付資料】

- ・ 次 第
- ・ 座席表・委員名簿
- ・ 資料 1：札幌市環境保全協議会・環境審議会 関係条例・規則
- ・ 資料 2：第 9 次札幌市環境保全協議会の活動（事務局案）
- ・ 参考 1：第 8 次札幌市環境保全協議会 活動報告書（本書・概要版）
- ・ 参考 2：札幌市温暖化対策推進ビジョン（本書・概要版）
- ・ 参考 3：平成 24 年度札幌市温暖化対策推進ビジョン進行管理報告書（概要版）

【会議内容】

1 会議開会

委員 18 名中 16 名が出席しており、会議が成立していることを確認した。

2 自己紹介

各委員・事務局から自己紹介を行った。

3 札幌市環境保全協議会の位置づけ

資料 1 に沿って、札幌市環境保全協議会の設置根拠や、関係条例・規則、札幌市環境審議会との関係などについて、事務局から説明した。

（委員からの質問・意見はなし）

4 会長・副会長の選出

委員からの推薦により、第 8 次札幌市環境保全協議会に引き続き、会長には小林委員、副会長には太田委員が選出された。

5 議題

(1) 第 9 次札幌市環境保全協議会における協議事項

第 9 次札幌市環境保全協議会での協議事項の事務局案について、事務局から説明した。

《委員からの質問・意見》

ア 協議テーマについて

○小林会長 第9次協議会の協議テーマについてだが、札幌市温暖化対策推進ビジョンの10のアクションのうち、対象を3つに絞り込むということ、もう一つは、観光客を対象とした対策としてどんなものが考えられるかということを経済局の案である。

○市村委員 「札幌市温暖化対策推進ビジョン」で掲げる10のアクションのうち、3つに絞る理由がよく説明されていない。

○事務局 札幌市のCO₂排出量は、産業部門からの排出量が少なく、民生家庭・民生業務・運輸の3部門で9割を占めている。このような状況を踏まえ、これら3部門に関係の深いアクションを抽出した。

○市村委員 実際の都市の動きは、入り組んだネットワークシステムの中で動いている。もう少し具体的なイメージが欲しかった。

アクション3の「公共交通機関等の利用拡大」という部分だが、これを挙げるということは利用が拡大していないということだと思ふ。それには色々な原因があり、環境部局のみでは収まらないこともたくさんある。そういう専門家を呼んで、色々な問題点や課題をみんなで認識することができるのか、また、他の部局との調整などを実行計画の中でどの程度行うのか、確認したい。

○事務局 専門家の話を伺うということについては、先ほど協議事項の事務局案としてご説明した、想定事業の段階において、臨時委員として協議会に加わっていただき、ご意見あるいは資料をご提供いただくなどはあり得ると考えている。

庁内連携については、温暖化対策推進ビジョン策定時のように、交通関係のみならず、温暖化対策に関係する幅広い部局に協議へ参画してもらい、実行計画の策定作業を進めていくことになると考えている。

○小林会長 札幌市には、セメント産業や鉄鋼業などがいないことから、札幌市の CO₂ 排出量には、札幌市内で消費されるこれらのものを生産する際に排出される分は含まれていない。運輸部門には、運送業だけでなく、自家用車の分も含まれている。

また、発電の際に使用するエネルギー消費も含まれているので、泊原発が停止している状態では、より多くの CO₂ が排出されることになる。

次世代のことを考えると札幌市民として温暖化対策を積極的にやることが重要である。そういう意味でも、アクションの 3・4・5 に絞り込むというのがいいのではないかと思う。

観光客に対する取組としては、環境行動を広めていきたいということで、札幌市は 5 年ほど前に「環境首都・札幌」宣言をし、それに基づいて様々な取組をしている。

宿泊するホテルでの環境配慮行動など、観光客に対して省エネ都市の姿をどう示していくかということをご提案いただきたい。

○市村委員 「観光客に対する温暖化対策」というのが唐突過ぎる。裏にある問題点などを整理しているのか。

○事務局 これまでは、札幌に住んでいる人がどのような取組をするのか、という点で普及啓発を行ってきた。観光客についても、滞在期間は短いかもしれないが、年間 1,200 万人という、札幌市の人口の約 6 倍もの人に対して、札幌市の取組を知ってもらうとともに、滞在中に CO₂ 削減を心掛けてもらう提案ができないか、と考えている。

また、滞在期間が短いということで、直感的に温暖化対策を訴えるにはどのような方法がいいのか、という温暖化対策の効果的な普及方法を考える一つの切り口になるのでは、とも考えている。

○宮本委員 1,200 万人の観光客というと、国内外、温かいところ、寒いところ、様々なところからの人が訪れている。観光客に対するイメージ、特に地方都市に対しての影響力について、どう考えているのか。

○事務局 観光客の内訳を分析して考えたわけではないが、今の委員の発言のとおり、ターゲットとする観光客を絞るということも考えられるのではと思う。

札幌市の周辺都市との関係から、環境首都・札幌を宣言した中で、道内のエネルギー消費の大部分を占める札幌市として、率先的に色々な取組をしていくということはあると考えている。

○大熊委員 「エコライフの定着・拡大」とあるが、若い人も年配の方も、環境にはすごく興味を持っていると思う。あえてこのことを入れる理由は何なのか。アクション6の太陽光発電の導入やアクション7の木質バイオ燃料など、具体的に行動しやすい部分をやっていった方がいいのではないか。

また、道外の方は、札幌や北海道に対して、環境の良いところというイメージを持っていると思う。観光客を対象とした温暖化対策をすることで、北海道のブランド力がより強くなっていくので、良いと思う。

○事務局 10のアクションは、ハード的なものとソフト的なもののCO₂削減という見方もできる。太陽光発電や木質バイオ燃料の活用は、設備を設置することでCO₂を削減するハード的な取組であり、エコライフについては、ハードを導入するというものもあるが、環境にやさしい生活・行動をするというソフト的な取組である。これをもっと突き詰めるという考えのもと、アクション4を取り上げている。

○小林会長 アクション4はエコライフと書いてあるが、アクション1から10までを全部ひっくるめたものがエコライフであり、太陽光発電や木質バイオ燃料に関する取組も含まれていると思っている。

何を求めて札幌に来るかは、どこから来る人かによって違う。緑や水辺、都市景観など、色々である。

○長岡委員 結局、全てお金が絡んでくる。自動車の普及という点で言えば、売り上げの上位は、ハイブリッド自動車と軽自動車が占めている。燃費がいいものを買いたましようということで、放っておいても普及していく。

公共交通機関で栄町から本庁舎まで来ると、往復で560円かかる。燃費のいい車に乗っていれば、某百貨店の駐車場に車を入れて買い物をすると、車で行った方が安く済む。

ヨーロッパでは地域内均一料金で、乗り換えても同じ料金である。そういう発想ができるかどうかだと思ふ。

経済の比較をしながら考えていかないと、結局実効性の無い話になってしまう。家庭や事業者の取組は、市の補助金などを活用して、それなりに進んでいるのだから、それを拡大していけばいい。

それと、何々をするといくら安くなるということを、もっとみんなの目に触れるようにしたらいい。

今後電気料金が上がるので、間違いなく省エネにはなってくると思ふ。

最後に観光客については、北海道に来たら1人1本ずつ木を植えましょうということを、観光ツアーなどに組み込んでいくといいのではないかな。

○小林会長 エコノミカルインセンティブをどういうふうに与えていくのか、ということは非常に重要であるが、札幌市でできることは限られている。市民活動でできることを優先して協議会で進めていけたらと思っている。

○宮本委員 実はこうなのだ、今は変わってきているということをきちんと伝えていく必要がある。

また、エコや省エネと言うと、減らすだけというイメージだが、楽しみや仲間を作るということにもっていかなければ、取組は広がっていかないのではないかな。そこから楽しい企画を出していければいいと思っている。

○千葉委員 エネルギーを減らすというふうにしかないので、気持ちの上でもハード面でも、将来に渡ってエネルギーを増やしていくということは、アイデアとしてあっていいと思ふ。

○宮森委員 省エネは楽しくやらないと続かないと思う。

観光客の点では、いまだに本州から来た人に、札幌市民は冬でも薄着だと言われる。公共施設は設定温度を下げていると感じるが、宿泊施設やデパートなどの温度設定を工夫することが必要かと思う。札幌市として、これをお願いしますということで取り組めれば良いと思う。

今年は数値目標のない節電になるということだが、ただ節電をしろと言われても進まないと思う。目標があった方が取り組みやすいと思う。協議会で独自の目標を掲げて、訴えていけたら良いと思っている。

○小林会長 流通業界から来ていただいている委員もいるが、照明や冷凍の問題で非常に電気を使う。24時間オープンしていることが本当にいいサービスなのかということなども、色々と検討していると思う。

○村上委員 電気代が上がっているので、今年も節電に取り組まなければならないが、ソフト的な取組は、もうやりつくした状況である。照明のLED化などもやっていかなければならないということで、昨年末から進めている。

そういうことから、単純にいくら下げるといことは言いづらくなってきているが、事業活動によるCO₂削減というテーマは非常に重い意味を持つと思っている。

○小林会長 今は便利になりすぎた部分があるので、もっと辛抱しなければならないこともあると思う。

2年間テーマ別に色々出していただきたいと思う。

イ 協議方法について

○小林会長 協議方法については、既存の色々な課題について、現状がどうなっているか、何が問題となって進まないか、ということを経査して、レベルアップさせていきたい。また、単独ではなく、色々と組み合わせることで、効果が上がるようなアイデアは無いかということをやっていききたいという事務局案が示されている。

○市村委員 既存の取組の連携・組合せとあるが、既存をあえて入れている意味を教えてください。また、レベルアップとはレベルアップしたい内容が事務局の中に何かあるのか。

○事務局 第9次協議会で目指す成果の一つとして、温暖化対策実行計画への提案・反映を考えている。

実行計画の策定は平成26年10月以降を予定しており、具体的な温暖化対策を書き込みたいという前提がある。よって、現在取り組んでいるものは、実現性や実効性の判断が容易で、問題点をすぐに洗い出せるのではないかとということで、既存という言葉を入れた。

新規的なものであっても、既存事業の発展形など、既存事業を統合したものであって、実現性や実効性の判断がすぐにできるものであれば、除外するものではない。

レベルアップをしたい内容については、具体的に持っているわけではなく、協議会で議論していただきたいと思う。

○小林会長 色々な施策をしたら、CO₂がどれだけ減ったか求められる。CO₂の削減が進んだらレベルアップしたということであろう。

CO₂の濃度は着実に増えていて、それによる気候変動のしわ寄せは、対策を取りえない途上国に行くので、貧富の差を一層激しくさせることになる。先進国は、本来は相当厳しいことをやらなければならない。

市民と色々な企業が協働して、どうやったら成果を上げられるかということを考えていかなければならないと思う。

○太田副会長 既存の温暖化対策の現状と課題の整理は、非常に重要だと思う。既に色々取り組んでいるわけだから、どの程度進んでいるのか、進んでいないとしたら何が問題なのか、どの程度までCO₂を削減できるのかなど、3つの分野におけるこれまでのデータや状況、見通しなど、次回会議までにある程度示した方がいいと思う。

アクション3の公共交通について、バスを利用する人がなかなか増えないのは、

冬は時間通りに来なくて待ってられない。特に年寄になると、車に乗せてくれということになる。こういう状況に対してどうするか。

アクション5の事業活動について、環境省の報告では、過去10年間、日本全体としては事業活動におけるCO₂の排出量は横ばいになっている。そうするとほとんど雑巾を絞り切っている状態である。ここに期待をするのはいいが、どういう分野、どういう領域で期待できるのかということを確認しないとにならないと思う。

○武田委員 市民が便利になればなるほど、運送業者にしわ寄せがくる。スーパーなどではバックヤードを小さくして、設置していないところもある。そうすると、トラックの荷台が動く倉庫になってしまう。

トラックも乗用車も低公害車が出てきているが、燃費と騒がなくても余計な時に乗らなければいい。補助金があるからと言って、無理して買わなくてもいい。

冷凍車は、エンジンを止めてしまうと、庫内の温度が上がってしまうため、アイドリングストップも限界にきている。

○小林委員 社会の仕組みがどうなっているかということをもみんなで学習すること、そして全体を見直すということは、次のステップに上がるために非常に重要なことである。

○高畠委員 協議テーマを固定して議論しないと、時間がいくらあっても足りない。

私はごみの減量・リサイクルに興味がある。ごみは分別すれば資源になる、ということを徹底していければと思っている。

また、200億という莫大な予算を使っている雪の対策についても、それを何か別なものに使えないかということも、議論できればと思っている。

○小林会長 雪の問題については、色々と計画を作って、対策を進めている。200億というお金は市が出したものであって、それ以外にも店舗や国道、道道などの分を合わせると、実際にはもっと多くのお金を使っている。

自動車の冬期間の走行を減らすことが一番有効だと思う。緊急車両の通行や大地

震に備えて、リスク対策としてお金をかけている。その辺で色々と工夫をしなければならぬ。

○小田委員

定山溪観光協会にいたときに、温暖化対策も兼ねて植樹、温泉利用の公園作りなどに関わったことがある。

また、観光客を対象にしていろいろと調査をしたことがあるが、定山溪に来てみたいという人が多く、実際非常に良い印象をもって帰るが、リピーターが少ない。

定山溪への冬の道路状況が悪いので、雪まつりなどで札幌を訪れても定山溪まで行く人は少ない。

また、通勤・通学時は、雪のため定時にバスが来ないので、車で行くようになり、渋滞の原因となっている。

ハワイで CO₂ が増えているというが、世界で色々な現象が起きているので、我々が目標を定めて取り組んでも、進まないところもあるかもしれないが、CO₂ を出さないことが一番である。個人や地域といった単位から少しずつでも浸透させていきたい。

○遠田委員 今まで積み上げてきたものを尊重し、それに対して肉づけをしていくべきかと思う。事務局の活動案に問題はないと思う。

○小林会長 今までのものを総合化して、実行計画の具体的事業として提案してもらいたいということ。

また、各委員がそれぞれの所属団体などで実行できることを提案いただくということで、特に異議は無いか。

(第9次協議会の活動の事務局案は、特段の異議なく了承された)

○市村委員 次の会議までに、事務局に用意してもらいたい資料がある。札幌市の温室効果ガス排出量の90%以上を3部門が占めるという話があった。これは割合であ

って、総量を減らすことが目的である。1戸当たりや1世帯当たりなどの排出量のデータを出してもらいたい。

札幌も人口が減ってきているので、問題の本質をつかむためにも、データをいただきたい。

6 その他

(1) 第2回会議の開催予定

第2回会議は、8月上旬の開催を予定していることを確認した。

(2) 第2回会議に向けた準備

各委員が取り組んでいる温暖化対策の現状と課題について、第2回会議までに事務局とやり取りし、整理することを確認した。

7 閉会